

## 第2回

千葉県公立高等学校入学者選抜

改善検討会議

第2回会議 協議資料

令和5年5月15日（月）

千葉県教育委員会

## 1 採点誤りの原因について

### (1) 日程、採点期間

- ・採点期間について、特段問題ないとしている学校もある。
  - ・午前中に授業を行った後に採点を行ったり、採点期間中に追検査を実施したりする学校もある。
  - ・記述問題の基準作りや採点に時間がかかる。
- 限られた時間の中で、続けて長時間の採点や、採点業務のみに集中できない状況等が、集中力の欠如等につながった。

### (2) 配点・解答用紙

- ・符号、短答（単語や短文）、記述、複数の解答が正しい場合に正答とする問題が混在している。
  - ・配点も設問ごとに異なる。
  - ・出題順も不規則である。
- 問題構成や配点の複雑さによって誤りが生じた。
- ・解答用紙に小問の得点記入欄が設けられていない。
- 小問の得点記入欄を各校で記入場所を定めていることが、小計や集計の誤りにつながった。

### (3) 採点者の意識

- ・調査では、採点者の集中力の低下や慣れなど、採点者の意識が誤りの主たる要因としている学校が多い。
  - ・他者が採点した答案を点検する学校が多い。
- 点検者の中に採点者の結果が正しいという心理が働いた。
- ・得点を記入する文字が乱雑で、集計する者が数値を読み誤ったケースがある。
- 正確性を期すという意識が足りなかった。
- ・限られた時間の中で、多くの答案を採点する学校もある。
- 多くの答案を採点することが集中力の持続に影響した。

### (4) 点検（方法・回数）

- ・県教育委員会は、実施細目等において複数の職員で採点に加え、点検を1回以上行うことを示している。
  - ・全ての学校が県の指示に則った採点マニュアルを整備していた。
- 採点マニュアルの内容に不備があったとは言えない。
- ・採点後に2回点検を行った学校の誤りの件数は、1回点検の学校よりも少ないが、誤りがなくなっているわけではない。
- 点検の回数を増やすことで、誤りが全てなくなるとは考えられず、一方で採点者の負担も考慮する必要があることから、点検回数に誤りの原因があるとは言いきれない。

## 2 第1回検討会議での質問について

- (1) デジタル採点システムについて
- (2) 他都道府県の入学者選抜について
- (3) マークシートの解答用紙について

## 3 採点誤りの再発防止に向けた具体的な改善点について

【①現状 ②課題 ③改善点・第1回で出た意見等】

### 論点1 日程・採点期間

#### ①現状

- ・令和5年度選抜までは学力検査後から合格発表までの日数は、5日間。
- ・採点のみを行う日も設定できるが、午前中に授業を行ってから、午後採点をする日もある。また、その日数には、追検査、判定会議用の資料作成、判定会議や合格発表の準備も含まれているため、採点期間は、実質2日～2日半程度。

#### ②課題

- ・限られた時間の中での採点・点検作業となっており、受検者の多い学校においては、採点者に負担がかかっている。
- ・授業を行ってから採点することが集中力の低下につながっている。

#### ③改善点・意見

- ・採点期間の日数を確保する。
- ・令和6年度選抜は、間を6日としている。

### 論点2 配点、解答用紙

#### ①現状

- ・様々な配点の問題がある。
- ・1つの解答で点を与える問題と、複数解答を完答で点を与える問題が混在しており、これらの問題についても配点が同一ではなく、出題も順不同である。
- ・解答用紙に小計の記載欄がない。

#### ②課題

- ・異なる配点、符号、短答（単語や短文など）、記述が混在しており、複数の担当者が採点・点検をする際に、複雑で配点の誤認、見落としなどの誤りが生じやすい。
- ・担当者ごとに枠外に小計を書くことになるが、記載場所が統一されていないため、見落としや書き漏らしが起りやすい。

#### ③改善点・意見

- ・ミスが起きないような、解答用紙の作り方、もしくは問題の順番、設問の順番について、うまく作ることを教育委員会の方で工夫するのがいい。
- ・部分点がある問題や、3点、2点、3点という配点では間違いやすくなるため、小計の欄を設けたり、設問の順番を変えたりする等、わかりやすくすることができればよい。

### 論点3 出題・採点

#### ①現状

- ・令和5年度選抜の学力検査問題の記号及び選択問題は、国語33点分、数学8点分、英語60点分、理科48点分、社会61点分。
- ・大半の学校が答案に直接採点を行っている。
- ・部分点のある記述問題を国語・数学・英語・理科・社会科の教員が中心に採点し、記号・選択・短答問題を5教科以外の教員中心に採点する学校が多い。

#### ②課題

- ・部分点のある記述問題の基準作りに時間がかかる。
- ・長文、記号、短答問題が混在しているため担当箇所が飛び飛びになる。

#### ③改善点・意見

- ・教員の働き方改革にもつながるので、マークシートを導入するきっかけにしてもいいのではないか。
- ・文章題等の記述式問題をどのように組み込むかが課題。
- ・記述は非常に大事なので、今回の採点誤りを機に、マークシートに傾倒していくのは、少し違うのではないか。

### 論点4 点検（方法・回数）

#### ①現状

- ・採点に対し1回又は2回の点検を行っている学校が多い。
- ・抽出答案の点検で、ミスがあればすべての答案の再点検を実施している。
- ・県教委からは、複数の担当者により採点・点検を行うよう指示している。

#### ②課題

- ・他者が採点した答案を点検するため、採点誤りに気付きにくい。
- ・答案をコピーし、2系統で採点している学校もある。この方法は、誤りの数を減らすことができるが、時間と人手が必要となる。
- ・点検が2回の学校は、1回の学校より誤りの件数は少ないが、それでも3割程度の学校で誤りが生じている。

#### ③改善点・意見

- ・採点とその点検については、非常に学校の先生方が注意し、よく検討されて取り組んでいることを改めて認識した。
- ・コピーを取ってからの2系統での採点は効果がある。ただし、時間がかかるため、導入は難しい。
- ・コピーをとって3回目の点検まで実施するというのは、教員の反発もあり、なかなか厳しいのではないか。
- ・採点誤りをゼロにすることよりも、合否の誤りをなくすために、ボーダーライン付近の点検をする仕組みを導入すべき。
- ・教員OBなどに採点の時だけ手伝ってもらおう等、人手を増やせないか。

## 論点5 教員の意識

### ①現状

- ・誤りが起きないように、校内で役割を分担して採点業務を行っている。
- ・校長による採点前の朝会での声かけや、採点会場の巡視で、職員の意識を高めている。
- ・県教育委員会が主催する会議・研修会で、他県の採点誤りの事例を周知し、注意喚起している。

### ②課題

- ・他者がつけた採点を正しいものと捉えてしまう傾向がある。
- ・採点と採点の合間に授業を行わなければならないため、集中しにくい面がある。
- ・限られた時間の中で採点業務を行っており、疲労などにより集中しにくい面がある。

### ③改善点・意見

- ・人が行う作業なので、どうしても誤りは出る。

## 論点6 県教育委員会の関わり

### ①現状

- ・入学者選抜実施細目において、各学校で採点マニュアルを定めることを示している。
- ・採点体制について、事前にチェックリストを用いて確認している。
- ・選抜について、校長会（年3回）、教頭・副校長会（年3回）、教育課程連絡協議会（教務主任対象、年2回）、実施要項説明会（中学校の進路担当・管理職及び高校の入試担当・管理職、8月）で伝達している。
- ・地区別教頭・副校長研修会において事故防止の研修を実施している。

### ②課題

- ・人為的なミスがあることを前提とした対策が必要。

### ③改善点・意見

- ・採点誤りをゼロにすることよりも、合否の誤りをなくすために、ボーダーライン付近の点検をする仕組みを導入すべき。
- ・マークシート等の機械を導入するのか、日数を確保する。もしくは人員を確保することのいずれかと感じている。